



これはなに?

『陣場地域雨量観測所』

テレビのお天気番組などで「アメダスの観測データ」として地域の降水量が発表されます。「アメダス」(地域別自動気象観測システム)という名前は比較的多くの人に知られていますが、アメダスそのものを目にするのはあまりないはず。そう、実は上の写真、アメダスなんです。昭和49年11月、陣場(新澤秀雄さん宅の敷地内)に設置されました。地上約2mに取り付けられたこの装置は、左側の円筒状の雨量計測器で雨量を自動計測し、その数値を右側の立方形の機械で秋田地方気象台へと転送しています。

アメダスは、県内38カ所、市内には陣場と片山(県農業試験場の裏手)の2カ所に設置されています。

大館の方言講座

「食」に関する言葉

- ◆アオモノ…山菜を含めた蔬菜そさいの総称
- ◆アトフキ…正式な宴会の後の内輪の宴
- ◆カラチャ…茶菓子なしの茶、肴なしの酒さかな
- ◆シミダゴ…凍大根。大根を短冊型に割って、寒中に屋外につるして乾かしたもの
- ◆ショツツル…イワシやハタハタの塩蔵液
- ◆ハバギハギ…行事の時や旅行に出かける時、仲間と飲食すること。(←ハバギヌギ)
- ◆ママ・マンマ…ご飯

『大館市史』から

11月のテーマ関連図書コーナー
『文学賞受賞作品展』
親子読みきかせ会
中央図書館の休館日
毎月第1金曜日 14時30分
11月20日、23日、24日

夢中 熱中 青春ライフ!

クローズアップ

(43)

大館マジシャンクラブ

もうじき忘年会の季節。忘年会のお楽しみといえば酒、料理、そして余興。毎年この時期には「にわかマジシャン」が増えるものですが、「大館マジシャンクラブ」はそんな人たちとは気合の入れ具合がちっと違うようです。

この会は昭和六十三年九月にマジック愛好者が集まって発会したもので、現在七年目に入っています。「マジックは器用じゃないとできない」なんてしり込みしなくてもいいんですよ。だれにでも簡単にできるマジックがたくさんあるんですから。宴会の席でティッシュペーパー一枚あれば立派にできるマジックだってあるんです。会では毎月第一、第四水曜日に、主に中央公民館を会場に例会を開き、技術の向上を図っています。また、主な活動の一つとして福祉施設を慰問もしています。自分たちの趣味が社会奉仕にも役立つのは、とてもうれしいことです。人前でマジックを上手に演じることができれば自信が付きましますし、多くの人に楽しんでもらえると気持ちがいいものです。ただ、私たちの会は規律が厳し

いんです。例会日に休まず、長く参加できる人でなければ会員にならないんですよ。中途半端にマジックを覚えてあとは会に参加せず、外部でタネ明かしをされたのではたまりませんからね笑。これからも息の長い活動を続けていきたいと思っています。



一般書

◆すぐそこまで来ていながら(杉森久英) ◆贅沢なる人生(中野孝次) ◆化身(愛川晶) ◆日本全国ユニーク美術館(新人物往來社) ◆「在外」日本人(柳原和子) ◆トイレのない旅(星野知子) ◆俺たちの水晶宮(影山の運命(坂井三郎) ◆ソロモンの歌(トニ・モリスン) ◆台所道具いまむかし(小泉和子) ◆日本海防艦戦史(木俣滋郎) ほか

◆はやくねてよ(あきやまただし) ◆おれんちのいぬチョビコ(那須田淳) ◆将軍カオスの逆襲(舟崎克彦) ◆ねことたのしくくらす法(ゆうちみえこ) ◆いたずらまじよ子とおかしのおうち(藤真知子) ◆かっぱうたろう(おのりえん) ほか

『半生の記』

藤沢 周平 著

文藝春秋

私の本棚

中央図書館新着図書

自身を語ることがまれだったこの作家が初めて明かす半生記。郷里山形、生家と家族、戦中戦後、そして闘病。エピソードを交えて自分の歩いてきた道を淡々と語る、藤沢文学の源泉を明かす自叙伝。